

令和2年度 第1回草津市立少年センター運営委員会 会議録

■日 時：令和2年9月8日(火) 13時30分～15時30分

■場 所：草津市立少年センター会議室

■出席委員：

坂崎 晋也（草津警察署生活安全課課長）
湯浅 敦（草津市青少年育成市民会議会長）
清水 昭博（草津市少年補導委員会会長）
棚橋 清子（草津市更生保護女性会会長）
野口 正樹（草津市民生委員児童委員協議会児童福祉部会部会長）
中野 宗城（草津保護区草津支部保護司会副会長）〈委員長〉
古谷 匠（草津市小学校校長会代表常盤小学校長）
高野 裕子（草津市中学校校長会代表草津中学校長）〈副委員長〉
井尻 正志（草津市内高等学校代表草津養護学校長）
栗津 晶子（公募委員） 藤岡 敏子（公募委員） 山本喜久子（公募委員）
井上 英明（草津市まちづくり協議会連合会 志津南学区まちづくり協議会）
山下淳一郎（草津公共職業安定所統括職業指導官）

■欠席委員：

稲垣 里紗（草津市PTA連絡協議会会計 玉川中学校PTA副会長）

■事務局：

杉山 泰之（草津市立少年センター・あすくる草津所長）
中出 幸宏（同補導員） 末廣 明代（同専門員）
埴岡 美江子（同無職少年対策指導員）

■報告：草津警察署 事務局

■傍聴者：なし

【事務局】今年度第1回の運営委員会をはじめさせていただきます。この会議は委嘱をさせていただいた15名の委員様のうち6名の委員様が人事異動や、団体の役員改選等により、委嘱後最初の会合でございます。それでは、開会にあたり当少年センター所長がご挨拶させていただきます。

【所長】この4月より少年センター所長を拝命しました杉山でございます。本日はご多用の中、令和2年度第1回草津市立少年センター運営委員会にご出席いただき、ありがとうございます。

草津市では、審議会等の委員選任を行う際に、平成25年度4月に制定されました草津市市民参加条例の規定に基づいて委員の選任を行っております。今回、新規6名の皆様には、運営委員に委嘱させていただきましたところ、お引き受けいただき重ねてお礼申しあげます。

当少年センターでは、青少年の非行防止活動および相談、街頭巡回活動、有害環境浄化活動、無職少年や非行少年の立ち直り支援と、困っている少年を一人でも多く、社会的に自立した成

人になれるよう取り組んでいるところです。

さて、近年の少年の状況で気になることの一つとして、非行が見えにくくなっていることがあげられるかと思います。毎年 10 月頃に発表される文部科学省の「問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」という全国の小・中・高校の統計データがあります。報道もされるのでご存知の方もおられると思います。滋賀県の昨年度の結果では、本調査開始以来初めて「暴力行為の発生件数」で、小学校が中学校の件数を上回りました。文科省の全国調査結果でも同じく、小学校の件数が中学校の件数を上回っています。小学生は服装や頭髪の加工や装飾などに逸脱行動を伴わないことが多く、中学校や高校でのいわゆる「荒れた」状態と異なり、外からはわかりにくいところがあります。

また、年間 30 日以上欠席者を対象とする「長期欠席・不登校」の状況で、滋賀県では平成 28 年度まで小中学校・高校を合わせて 2,200 人前後で推移していたのが、29 年度には 2,400 人、30 年度には 2,600 人と増加の傾向がみられます。この非社会的行為の対応が増えていることは、立ち直り支援事業「あすくる草津」でも実感しているところです。さらに今年度は、コロナウイルス禍により、新たな生活様式のもと、青少年にとっても新たなストレスを生じさせることも考えられます。

本日は、こうした状況を踏まえたうえで当センターの「活動のあり方」等について忌憚のないご意見やご提言をいただきますよう、よろしくお願いいたします。

【事務局】2 点確認させていただきます。1 点目は机上のマイクですが、今回会議録を作成するために設置したものです。2 点目は、今回の運営員会の様子につきましては少年センターだよりの 11 月号に掲載させていただくこともあるかと思しますので、写真を撮らせていただきますのでご了承ください。それでは、今年度の最初の会合ということで、委員名簿にそって自己紹介をお願いします。

(自己紹介)

【事務局】それでは今後の運営委員会を進めるにあたりまして、草津市立少年センター条例施行規則第 9 条に基づき委員長、副委員長は委員の互選によりますが、今回杉山副委員長が退任されましたので、副委員長につきましてはどのように選出をさせていただいたらよろしいでしょうか。

(事務局一任の声)

【事務局】はい、ありがとうございます。それでは事務局といたしましては、副委員長に草津中学校校長の高野裕子様をお願いしたいと思いますと思いますがよろしいでしょうか。

(拍手)

【事務局】ありがとうございます。それでは、高野先生ご挨拶をよろしく申し上げます。

【副委員長】ただ今、副委員長に就任させていただきました高野でございます。それぞれの団体や関係機関の皆様におかれましては、日頃より青少年の健全育成並びに非行防止活動等にご尽力をいただきまして誠にありがとうございます。この少年センターの運営委員会では、いろいろな活動報告等を受けまして、皆さんから忌憚のないご意見、そしてご指導を賜りたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

【事務局】それでは会議に入らせていただきたいと思います。本日の運営委員会につきましては、草津市の市民参加条例、草津市立少年センター運営委員会の傍聴要領に審議会等の公開等に基づき、委員会の公開、傍聴および議事録の公表の手続きをさせていただいています。本日の傍聴につきましてはゼロの状況です。それでは会議の進行につきましては、草津市立少年センター条例施行規則第9条の規定に基づきまして、委員長に議長をお願いいたします。

【議長】保護司会の中野でございます。あらかじめ資料がお配りされてあろうかと思えます。このレジメに従って会議を進めて参りたいと思えます。どうぞよろしくお願ひ申しあげます。初めに草津警察署から、令和2年度の草津署管内の少年非行の現状について説明いただきたいと思えます。

【草津警察署】草津警察署の坂崎です。よろしく申し上げます。この3月に生活安全課長となりまして、昨年は同じ草津警察署の地域課長をしておりました。昨年度はパトカーに乗って管内の交番を回ったりという活動をしておりました。昔と比べて感じるのは、先ほどおっしゃっておられましたが、少年を外で見る数というのはかなり減っています。深夜パトロールであっても、たむろしている少年というのは、かなり減っております。昔であれば大型量販店等に少年が蝟集しておりましたが、蝟集しているという状況は減っていると思われます。

それでは、滋賀県の犯罪の発生の状況について簡単に説明させていただきます。昨年、滋賀県では約6,800件の犯罪が発生していますが、そのうち草津署では昨年1,220件の犯罪が発生しております。今年については1月から7月までですが、県下では3,500件の犯罪が発生しております。昨年と比べると、約360件ほどのマイナスになっております。草津署につきましても、この7月までに約620件犯罪がありますが、昨年と比べてマイナス80件で、実際に減少しております。草津署管内で平成27年に発生した犯罪が約2,200件です。ボランティアさんや関係機関の活動もありまして、犯罪自体はかなり減少しているという状況にあります。

次に少年の関係ですが、お手元に「少年非行のあらまし」を配布させていただきましたが表面の「少年非行のあらまし」と書いていますが、草津警察署の7月時点での数値です。刑法犯少年は、刑法上に関わる犯罪を犯した少年の数で、実際捕まったという少年の数になっております。裏面の少年課速報と書いていますが、これは本部の少年課が出している資料で、滋賀県全体の資料になります。滋賀県全体の資料は、また持ち帰っていただいで確認していただければ幸いです。

簡単に資料をかいつまんで説明させていただきますが、先ほどは犯罪自体減少していると説

明させていただきましたが、少年の検挙数自体も減少しております。滋賀県全体で約 10 年前の平成 22 年は刑法犯で捕まった少年は、約 1,200 名おりました。昨年 1 年間で、滋賀県で捕まった少年は約 400 名です。犯罪を犯した少年自体も、大きく減少しているという状況がこの数値から表れております。

では、草津署ではどれぐらい検挙されているかということですが、この 1 月から 7 月まで、資料にも書いてあるのですが、現在 47 名の少年を検挙しております。昨年と比べて 17 人増加ということで、草津署にあってはやや昨年に比べて犯罪少年の犯罪は増えている状況であります。

少年が犯す犯罪の主なものは窃盗です。万引きや自転車盗といったもので、これが 22 名おりました。検挙数の半分が窃盗になります。また、今年の特徴としては、強盗事件で捕まった少年が 10 名おります。

次に補導件数ですが、「少年非行のあらまし」に不良行為少年の状況がありますが、これが補導した少年の数になります。夜の 11 時以降、街中をウロウロしている場合は深夜徘徊ということで補導します。この数が 7 月までに 70 人、喫煙ですと補導した少年が 42 人、全体で 131 人の少年を補導しています。現時点で 43 名減少ということで、昨年よりも街中をウロウロしてる少年は減っているような状況です。

最後になりますが、私も 10 年ぐらい草津警察署で勤務していますが、先ほども言いましたが、少年を街中で見るのが減りました。この影響ですが、やはり携帯電話の普及が大きなものだと思われまます。子どもの生活スタイルが急激に変化していることを感じます。友だちと街で会わなくても、携帯電話の無料通話でどんどん繋がることもできますし、インターネットの SNS を使って、他の知らない中学校の子と友だちになったり、インターネットの中でどんどん友だちの輪が広がっている現状です。夜出歩かなくなったということはいいことですが、逆に先ほどおっしゃられましたように、どこで何をしているのか行動が把握しにくいのが現在の状況だと言えます。SNS は使い方によっては大変問題があるものになってきますし、実際、児童ポルノとか淫行という大人との異性行為等の被害に遭ってしまうという子どもが実際毎年把握されていますし、今年も中学生等で、そういった被害にあっています。SNS の利用について、今後力を入れて啓発をしていく必要があると考えられます。

最近、ニュースにもよくなっていますが、特殊詐欺というのが横行してます。その受け子として少年が加担し、家にお金を取りにいたり、警察官役に少年がなっていくということがニュースになっています。滋賀県でも検挙していますが、安易なアルバイトで犯罪に手を染めてしまう少年がみられます。この点についても、学校と連携して啓発をしていかなければならないと考えています。以上で、説明を終わらせていただきます。

【議長】はい、ありがとうございます。ただいま坂崎課長から、草津署管内の少年非行の現状についてご説明をいただきました。本日、委員の皆さん、それぞれの立場の中から関係する部分なり、何か質問等がございましたらご発言をいただきたいと思います。

【湯浅】わかりやすい資料ありがとうございました。まず一つ目ですが、小学生の窃盗犯その

他について何を窃盗したのか、また、小学生の不良行為について、その他とはどんなことがあったのか、わかる範囲で教えていただければと思います。

【草津警察署】小学生のその他については、手持ちの資料では詳しいことは何の罪であったか把握できていません。

【湯浅】もう1点よろしいでしょうか。喫煙(3)、飲酒(5)、家出・無断外泊(2)とありますが、これはすべて女子生徒ということでよろしいでしょうか。

【草津警察署】そうです。3人中3人が女子生徒。確かに最近女子生徒の補導数は目立ってきている。ただ、この人数というのも、純粋に100人いるというのはなくて、また同じ子どもが何回もすれば、増えてくる。同じような子どもが何回もしてるということで女子生徒の比率が上がっているということも言えます。

【湯浅】コロナの影響は出てきているのでしょうか。

【草津警察署】コロナの影響で何かうちで取り扱うということは特にはないのですが、学校が休みの期間が長かったので、その間は深夜徘徊が増えるかと思っていましたが、それほどこの期間、夏休みのようにぐっと増えるというような状況はありませんでした。逆にコロナの影響で夏休みが大変短くて、その期間犯罪が多くなるのではという懸念もあったのですが、意外に犯罪自体は増えずに平穏にすぎました。

【井上】スマホが普及して環境が変わったということもあるのですが、ネット系の犯罪で捕まったという件はあるのでしょうか。例えば脅迫が1件とありますが、それは直接の脅迫なのか、ネットの書き込みによる脅迫であるのかが疑問に残ります。

【草津警察署】私が来てからメールでの脅迫という事件は取り扱っていません。すべて面前です。

【野口】補導件数ですが、コロナの影響で学校が休校扱いとなっていました。普通授業をさぼって街に出て補導されるというケースがあると思いますが、今回は学校が休校中にそういったところに巡回されて、ゲームをしていて補導されるのか、注意をされるのかどちらか。休みなんでどこに行ってもいいと思うのですがどうなのでしょう。

【草津警察署】コロナ期間中の学校休校中の取り扱いですが、学校自体が休校なので、怠学という取り扱いはしていません。学校がある時も、学校をさぼっているのではないかという時は学校に確認しています。実際に体調が悪くてという場合もあるので学校に確認しています。

【議長】他にないでしょうか。私の方からひとつ発言させていただきます。さきほど少年非行全体が減少しているとお話がありましたが、保護司もさせてもらいながら、地域の町内会長、自治会長もしています。警察の大橋署長とお話をする機会がありましたが、警察をどうしたら増やすことができるのか。ほとんどの人が犯罪の数が減っていると言われますが、南草津駅の交番では忙しい思いをされている。犯罪や検挙は少ないかもしれないが、警察や交番にそういう事を言いに行く内容はたくさんある。警察に相談するようなことはたくさんある。

子どもたちも外に出なくなった。まもなく市内の学校ではタブレットが配られると聞いている。学校の評価委員会のメンバーをしているが、この頃の子どもたちの勉強は、私から上の年

代の人たちが体験した授業の風景と全く違う。1歳前後の子どもがスマホを指で触っている時代、イメージを変えて子どもたちを見なければならぬ実態がある。検挙数は少なくなっているが、世の中の流れが変わってきているという事を各関係機関の皆さまにも参考にしていただきたい。それでは協議事項に入ります。

【議長】協議事項が2件

- ・草津市立少年センター上半期の業務活動状況について
- ・令和元年度のことも含めて説明

【事務局】県内には16の少年センター（内あすくる9）

栗東市少年センターにあすくるはないので栗東市内の少年も支援

センター職員8名（臨床心理士1名（年間260時間）、他7名は教員免許を所持）

<補導委員>今年度改選（任期2年）、14学区・区89名（1名欠員）

<あすくる草津>平成16年6月開設

<相談活動（一昨年度比）>件数：10%増、内容：学校学業62%、相談者：保護者割合増、本人・学校割合減、対象者：中学生割合増、高校生割合微減

<街頭巡回活動>補導委員中心、通常月6回、午後4時・6時・8時の3つの時間帯、従来：3コース（南草津駅方面・草津駅方面・イオン方面）。3月～5月：コロナの影響で中止、6月～：公用車で移動しない草津駅方面のコース（de愛ひろばからAスクエア）を1時間余りかけて巡回、de愛ひろばの状況：一般の人が帰る午後8、9時以降に蝟集。遅い時は深夜の2、3時まで中学生や高校生、25、6歳の大人が騒ぐのが4月以降続く。時にはバイクの乗り入れもあり、現在は落ち着いてきている。ポケットティッシュの配布：声掛けをしながらの巡回だが、今現在はコロナ禍でストップ。

<街頭啓発活動>7月：今年度は中止、11月：子ども若者育成支援強調月間は検討中

<有害環境浄化活動>市内に70店近くのコンビニ等。昨年有害図書の販売停止でコンビニに成人向けコーナーなし。該当するような図書にテープ留めがなくて置かれていることあり。県下一斉の立入調査：10月から11月、対象：市内有害玩具等取扱店、コンビニ、書店等

白ポスト：5ヶ所（追分フレンドマート、南草津駅東口、上笠フレンドマート、草津駅東口・西口）に設置、毎月第3火曜日に回収

<学区・区巡回活動>少年に出会わなくても抑止活動。緑の帽子、緑のベストで補導委員が巡回、コロナ禍で工夫して巡回

【事務局】<無職少年対策事業>

対象：16歳～20歳、中学校卒業後進学も就職もしなかった、或いは進学したが中途退学した少年。県内でも、通信制の高校が増え、中学校を卒業しても無職ではなく、一旦は通信制へ行く、或いは高校を中退・進路変更し通信制へ行く子が増加。無職の少年は減少、現在支援する少年は、通信制に在籍する少年や高校を休学中の少年。就労に向けての取り組み：面談で希望職種や時間帯等の希望がまとまれば、ハローワークと事前相談後、一緒に行く。少年

との信頼関係を築きたい。ハローワーク：求人数減、求人誌で探す。コンビニや飲食店では求人募集の貼紙が多い。自分が行く、一緒に行って探すことも。とりあえずこちらが探す。希望決定 → 履歴書作成 → 面接練習。一番大事にしていること：決定後も連絡をとることの継続とハローワークとの連携。学卒ジョブサポーター：学校卒業して3年以内の少年、就職支援ナビゲーター：コミュニケーションがとりにくい、あるいは発達障害がある少年。少年の状態や希望を伝え、その子にあった就労を探す。仕事をする上で大事なこと（①挨拶をする。②時間を守る。③話をしっかり聞く。）を話していただく。無職少年と関わるきっかけ：通所少年の中3卒業時にアルバイト希望、高校に行つて中途退学して、進路変更。学校訪問：高校には年間2、3回訪問、目的は少年センターに繋いでいただくこと。就労体験協力企業：28年度にスタート、現在41社。社会に関われない少年が多い。就労体験を通して働くとはどういうことか、仕事のやりがいとか厳しさ、達成感、とにかく体験（例えば挨拶する、説明を聞く、わからないことは聞く、できたらちゃんと評価してもらおう等社会との関わり）。作業が危険なので、見学や話だけという企業も。しんどかったけどやりがいがあったと言ってくれた時はよかったなと思った。緘黙の少年がいてどうしたらいいかと思い、企業の方に仕事をする上で大切なことは何かと聞いた時に、答えていただいた内容：①働く意欲がある。②挨拶ができる。③目を見て話が聞ける。④無断で休まない。⑤コミュニケーションが取れる。どんな仕事であっても必要。無職少年の現状：対象少年8名、無職少年は1名（昨年度）。ある少年は3年ほどかかり、面接はずうっと落ち、アルバイトに行つても気に入らないことがあると段ボールを蹴つて相手に殴り掛かったことも。この少年はとにかく自分が働いて稼ごうと思っている。フォークリフトや車の免許を取つたりしているが、今まだ探している。高校生：定時制4名、通信制3名。全員が働いているわけではないが長続きしないので継続した取組をしている。関係機関との連携（昨年度）：中学校、高校、ハローワーク、就労体験協力企業、発達支援センター、市の家庭児童相談室、保護司、臨床心理士（センター）、県働き暮らし応援センター、市障害福祉課、人とくらしのサポートセンター。少年が人と繋がつてその支援者を増やしたい。一緒に仕事を探して就労して退職して、最後は自分だけでやり出してほしい。課題：無職少年は減少、発達障害や引きこもりが増加。関係機関が繋がるのが大事。就労への自信や意欲を持ってほしい。人や社会との関わりを少しでも増やしたいので、就労体験協力企業の開拓をしていきたい。協力いただける企業があればご紹介いただければ。

【事務局】 <あすくる>

あすくるは非行等の問題を抱え居場所もなく悩みをもつた少年が、自分自身を見つめ直し健やかに成長していくための、本人並びに保護者の立ち直り支援事業。明るい明日が来る（明日来る）、町の学校（a school）という意味。2004年の6月開設。栗東市少年センターにはあすくるがないので、栗東市内の中学校の子も来ている。対象は成人するまでの子どもと保護者。予算は県・市から。今までの支援の少年の数は8月末までで157名、多いのは中学校2、3年生。現在支援している少年は21名。非行少年もいるが、学校に行けない、不登校で家で暴力を

振るう、自分の思いが素直に言えない、そういう少年も来ている。高校生が多いのは、定時制や通信制に行くが、家庭環境がしんどい子どもたちがいて、困ったこと（レポート提出やアルバイト探し等）や愚痴、悩みごとを話す子もいる。中学生は通所すると学校が出席扱いになり、先生がセンターへ繋ぐことがある。週1回問題行動対策委員会に出席し、心配な子どもたちについて学校と連携を取りながら、個別に支援の子ども一人ひとりに、職員やサポーターが関わっていく。学校では同級生の友だちがいて格好つけんとあかんとか気にすることもあるが、ここでは一人なので自分の気持ちを素直に言ってくれる。職員は全員教員免許を持ち全力で良いことはすごく褒めるので、自尊心が低い子が多くすごくうれしそうな顔をする。子どもたちは、褒められるとすごく自信をもち、良い面を出してくる。相談：内容は最近では不登校や就労のことが多い。関係機関と連携をしながら、子どもにとってどうしたら良いのかを考えている。きっかけは、保護者や学校からが多い。保護者や学校、警察、他の機関から対象少年のことを聞いて把握をし、検討する。本人面談、保護者面談をし、説明をし、どういうところかを本人、保護者に見てもらおう。支援計画を立てどのような支援をしていったらいいか、職員で共通理解しながら、一人ひとりに合わせて考えている。青少年支援サポーター：今年度11名登録。20歳から60歳代まで。いろんな人生経験があり、その経験の話やいろんな方に接してもらい、少年もすごく自信をつける。支援プログラムは五つ：自分探し・生活改善・就学・就労・家庭

<自分探しプログラム>一番力を入れている。中学3年生は進路の事も気になるので、勉強もする。少年が得意なことややりたいなと思っていることを一緒にしている。家族の人と一緒に何かをするという機会が少ないので、職員と一緒にひとつのことをすることで、大事にされてるんやなと思っている。センターでは野菜を作っていて栽培する、調理する、試食するということは、これからも進めていきたい。食はこれからの人生で大事なことで、家ではなかなか調理してもらえないので、自分で作って食べられるようになる。すごくうれしそうな顔をして調理実習する。畑づくりから、芽が出ていって、実を採る体験をしていく。作ったものは職員とかに配って、ありがとうと言ってもらいすごくうれしそうな顔をする。ある子は、家ではなかなか構ってもらえないが、お母さんも一緒にゲームをしたりしている。中学校の先生に来てもらっている。学校では見せない表情も見せる。これが作りたいなというのがあり職員も勉強し、いろんなことを一緒にすることですごく少年たちは安心していい表情をする。ジャガイモが採れたら、ポテトチップを作る。こういうことを大事にしていきたい。木工や卓球、魚とり、ゲームをしたり、できたという達成感。ゲームをしてどんな考えをしているのかわかることがある。多くの人と接触したり会話したり体験したり、どの子どもだんだんと落ち着いてくる。ここが居場所となるようにしている。

<就学支援プログラム>勉強は好きではない、学校で落ち着かない、家で困っていると、ここへ来てゆっくり話を聞いたり、勉強したり、いろんな話をしたりして、進路に向けて目標をもって頑張る。友達が行っていたからという理由で高校へ行く。大人が言うより信頼する友達からの話がある。学校の先生と相談しながら進めている。中学生が週1回、今年度は1時間半

だが、状況に応じて卒業すると終結ということで支援を一応終わるが、まだ来たいという子は、ここは20歳までなので、継続している子もいる。終結した子でも困ったことがあると相談に来る子もいる。

広報活動：新聞、ラジオ、少年センターだより（2か月に1回）。中学校の啓発教室の時にクリアファイルを配っている。

（DVD視聴）

【議長】令和2年度の少年センターの活動計画の説明を

【事務局】イオンや南草津駅方面は行けないので、青色防犯パトロールを増やす。えふえむ草津、次は杉山所長が出演。前任の中谷所長がやまびこに異動、1時間番組に変わる。えふえむ草津に力を入れていく。来年の5月から旧西友跡地にできる市民総合交流センター（愛称キラリエ草津）に移る。あすくる農園はできるが、今以上に広がることはない。

<あすくる>支援の必要な子どもは年々増え、通所している少年は増加。非行少年以外に家から出られない、ここに来る時しか出ないという高校を卒業した少年。そういう子どもたちの支援もできる限りやっていきたい。大人になるまでの10代のときに、1歳でも若い方が、柔軟に心も変わっていく。中学校1年生の子どもで全然表情も変わらない子がいて、中3になっていろんな話もしてくれ、自信を持って中学校に行けるようになり、少しでもその子にあった支援ができ、ここが居場所となるよう関わっていきたい。

<無職少年対策>できるだけ体験をさせたい。就労（体験）できる企業があれば、紹介を。

【議長】協議案件1番目、2番目の説明で、質疑等があれば。各種団体の皆さんから、センターとの関わりで自分の団体がどうあるべきか、どういう関係か、今後さらに支援していただけるのかなどをそれぞれ聞かせていただけたら。

【湯浅】青少年育成市民会議として確認したいことがある。区民会議の方で、愛のパトロールのことで「これ無駄と違うか」、「目に見える定量的な結果は」と話があった。何事もないのが一番の成果と思っている。例えば、警察でも見守りするし、防犯カメラも設置している。補導委員もパトロールしている。それが無駄なのか、それを説明できないかなと皆さんにお知恵を拝借したい。もうひとつ、今年7月は街頭啓発をしなかった。おそらく11月も厳しいのでは？パトロールも3月～6月とできていない。その間に凶悪事件増えた、そんなことない。やらんでも一緒やないかという。今年は例年よりも犯罪が増えたから啓発活動が大事ではないかといえるが、犯罪の抑止力というパトロールの大きな目的だと思う。でもそれを数値化できず、説得できないかなと思った。パトロールが効果的に結果を出しているという資料出したいが、何かいい方法がないか。

【議長】各種団体含めて、このように考えたらどうですかという意見があれば。

【湯浅】街頭啓発は1回しただけで、犯罪そのものが大きく減少することはないし、意識づけの問題で数値化できず、悩んでいる。センターとは、いろんな点でサポートしていただけるとありがたい。就労体験は大賛成。10何年前、1週間で我が子の目の色が変わった。素晴らしい

取組だと思う。

【議長】湯浅委員に対する意見があれば。

【清水】補導委員になって今年 15 年目。最初の 5 年ぐらいは街頭活動をしていて、子どもの数が多く声かけもし、補導とまではいかないが注意をしたりした。ここ 7、8 年ぐらい前から極端に少なくなり、どこを回っても子どもを見なくなった。私は南笠東学区だが、最近は小学校や中学校、コンビニを中心に回る方に力を注いでいる。コンビニは今年の夏休みは頑張って回ったが少年がいない。巡回していることでよく言われていることは、補導委員の場合はチョッキと帽子を身に着けて回っているの、これを見て抑止力としてかなり貢献しているのではないか。どれだけと言われても具体的に表現することは難しいし、できないと思う。今後とも少年センターと一緒に、センターを助け、補導委員会も頑張って取り組んでいきたいので、よろしくお願ひしたい。

【棚橋】更生保護女性会は、今年は何も活動もできない。先ほどの説明で気になったのが、小学生の犯罪が中学生の犯罪よりも増えたということ。小学生の犯罪にはどういう犯罪があるのか。

【事務局】件数は年によって変動、人数が増えたということ。小学生が感情をコントロールできなくてやってしまう。発達特性の部分がかかっていると思う。中学校にいた時に民生委員さんや補導委員さんと校区のパトロールで回っているが、この 3 年ほど夏休みは、今年は日数が減ってはいるが、全然見かけない。

【棚橋】コロナ禍で、家庭内暴力とか子どもへの虐待とかが増えていることをメディアで見聞きするが、実際そういうことも市内では起こっているのか。

【草津警察署】コロナの影響かわかりませんが、子どもの目の前で夫婦喧嘩も子どもに心理的なダメージを与えているとして、児童虐待と捉えて対応していることもあり、児童虐待の取り扱い件数は増えている。年々犯罪の発生自体は減ってきているが、DV やストーカー、児童虐待の取扱いは増加している。

【野口】コロナ禍でイベントの取り止め、高齢者や親子を集めてのサロンが規模を縮小しないといけない。参加者は親子サロンは昨年 40 組、今年は 6 組と減少している。密なところへの警戒で減っている。高齢者宅への訪問も大きな役目だが、人に会えないという高齢者自身の悩みが多い。訪問のあり方とか考えていけないといけない。子ども向けのお帰りのサポート（低学年を下校時に交差点で見守る、信号がなく交通量の多い所に立って誘導）では、マスクをしていて表情が分からず声を掛けても会釈するくらい。これが当たり前の風景になると恐ろしい。

【山本】高校に訪問されているとのこと。支援しているが、高校に本当に行っているかどうか分からない。個人情報でなかなか聞けない。高校とのつながりは大事なので高校訪問はありがたく、これからもお願ひしたい。担当している子どもが、「警察に呼び止められた」と。「どういふふうにしたん」と聞いたら「最後はもう」とかいう感じで、「すごく怒って別れた」と言っていた。人とのコミュニケーションがまだまだだと思ふ。ちゃんと応対して最後にこっとして別れたらいいのに、印象悪く別れてしまっている。自分の意見を言える子も増えてきている。

コミュニケーションは、担当している子にはまだまだ教えていけないことがあると思う。

【藤岡】説明を聞いて頑張っていてくださると感じた。聞いた話だが、中学校1年生で、入学式に行ったけどそのあとずっと行ってない。また、急にある時は学校へ行った。そこで人間関係を結んでいくことがすごく難しく、別に小学校へは普通に頑張って行っていたが、中学校へ行った途端に、学校へ行くのがしんどくなったと聞いた。これは多分人間関係が中学校のクラス数が小学校と違って多いので、行っても人間関係がすぐに結べるものではないし、お互いにペチャクチャしゃべることが良いことでない今現在の状況。子どもたちもしゃべる、そばに座るとかいうことは今のところ駄目な状況で、しんどいかなと思った。お弁当の時間もすごく短いとも言っていた。これは女の子だが、学校へ行くのがしんどいと言っていた。行ったらしんどくなって保健室へ行って、しんどかったらもう帰っていいよと、言ってもらえるから何か喜んで帰ってくるようなことをある方がおっしゃっていた。中学校の校長先生もおられるのでお尋ねしたいが、ちょっとしんどいとかいう場合、子どもが保健室に行った場合の対応は？保健室にしばらくいて、その辺の話を何らかの手段なり、教育相談の先生たちが話をさせて進めていかれるのか。教室で人間関係がうまく結べない子がいる。学校で対応できないのであすくるの方へ来るのか、どのような対応をされているのか分からないが、中学校と比べ小学校の方がまだその辺聞いているといくらかましなので、中学校が一番精神的にしんどいかなと思った。

【高野】熱があつて体調が悪くしんどいと、処置をして帰らせたり保護者に迎えにきてもらったりする。精神面であればもう帰りなさい、帰りなさいだけではなく、教育相談担当の先生、あるいはまず担任。教育相談担当の先生が、中学校は教科担任制なので、そういう子どもにその先生が関わることになる。子どもが話しやすい先生と空いている先生方、もしくは養護教諭と話をしながら心を癒していく。長引く子、話を聞いてもらいすっきりする子と、いろんなパターンがあるので長引くようであれば関係機関につないでいくことになる。決して放ってはおかない。

【藤岡】養護教諭の先生と話をする時間があまり取れないと聞いた。現在の学校現場のことが、特に中学校は、私が小学校だったのでよくわからないが、コロナ等も踏まえての対応の難しさがあるのかなと思った。

【栗津】あすくるの活動、素晴らしいと思う。昨日テレビで「逆転人生」という番組を見ていたが、少年院や鑑別所に入って出てきた子を受け入れるという内容だった。私が居るよという声をかける存在が大事。元々自分も悪くて自分の経験も踏まえて、立ち直って自分が支援したいという人の映像だった。経験されていることはすごく力になる。説得力が湧いてきて、同じような環境で経験を語り繋がっていき、より強くなる。そういう人が一人でも増えていくような社会だったらいいなと思って、感動して見ていた。今こども園にいるが3、4歳ぐらいの子ども。昔と違って問題行動というか、未熟な子ども。発達がどうなのか、発達段階なのか、何か持っているのかなという、初対面の子どもが目につくようになってきた。その支援があるので、昔であったら30人ぐらいだったら1人で担任できたが、今は先生が3、4人ついてみん

なでやっている。親の方がそういうのを抱えていて子どももそうなのか。先ほどの夫婦のトラブルというのが若い世代でたくさんあると思う。ひとり親も小さい子どもがいる。あすくりにそういう子どもがきているのかわからないが、小さい時からずっと引きずって抜けていないでいる。子どもを産む大人としての自覚を持つこと。親の教育はどこでするのか。昔は学校とかで講演会があったが、今はないし、親はどこで親になるのかと思う。我が家は同居しているので、このコロナ禍でも何とかあったが、夫婦で働いていて帰って来ても、夫はもっと遅い。それから夫婦で、煮詰まってどうにもならない。こんな家庭がいっぱいあって子どもがそれを見てどこまで成長できるのか。今の若い人、子ども、かわいそうだと思う。どこか家庭以外、学校以外でも繋がっていける場所があるという啓発もあったので、子どもが直接こういう場所があるということを知る機会も大事と思う。いい活動だなと思って見ていた。

【井尻】青少年育成委員会で子どもたちと関わりのある活動は、愛の声掛けパトロール。高穂中学校と志津南小学校の校門前で、子どもたちとコミュニケーションをとるという活動。今後の予定だが、コロナ禍でできていない。委員の中に、コロナ禍だから接触するのはどうか、今年やるのかやらないのかって意見も出ている。今月委員会があって、今後の活動について徹底していこうと思う。もしやることになって、パトロールする機会があれば、パトロールするだけでなく会社の研修で教えられたこと（人間の欲求には食欲、睡眠欲、性欲がある。それに匹敵するぐらいに、承認欲求というのがある。褒められたらすごいと喜んでくれ、承認欲求を満たしてあげられる。）を考えながら活動をしていきたい。ただ、コロナ禍でやらないほうがいい、無駄だからやりたくないというわけではないので、その点を取りまとめて、反対意見が多くてできないかもしれないが、独断で決められないので、悩み困っている。接する機会があれば子どもに承認欲求を満たしてあげられる活動をしていけたらいいと思う。

【議長】小中高の先生方から今までの話し合いを含めて、意見があれば。

【古谷】小学校では防犯教室（インターネット）でお世話になっている。大事な教室だが、体育館に子どもたちを集めての集会活動ができない。去年これがあるのを初めて知って、是非とも今年はお願したい。パトロールは、もちろん小学校も夏休みは補導活動していた。それが今年夏休みが特に短いこともあり子どもに会わない。夏休みに午前午後行っても会わないことが続くので、もう止めておこうということになり、していないことが多いと思う。犯罪が減ってきているので、いいやないか。学校の場合明らかに減ってしまい全然会わない。この辺は違うところに時間を掛けてもいいのではないか。小学校の生徒指導関係で話しているのは、虐待や暴力、問題行動が増えていること。保護者の方、地域の方、先生のアンテナも高く、もう地域の方がすぐあれって虐待と違うかと。やっぱりそうやったか。叩かれて泣いている。問題行動についても、学校では普通に喧嘩したというのも全部挙げている。それがうちの学校、草津だけでなく、全校的にそうやって、必ず記録を残して行って、次に何かあるときにこうやってという具体的な取組ができないと困るので、学校の意識が変わってきている。例えば、いじめと不登校の関係で、小学校でいじめの件数が多いところは、不登校が少ない。つまり先生が、これもいじめじゃないかと思える目が深くなって、不登校にもそういうアクセスができる

ので少なくなる。

【高野】中学校の方から、四つぐらいにまとめたいと思う。センターには非常にお世話になっていて、反社会的な子の支援というニュアンスを強く思っていた。本来ならば、やまびこの方にお世話にならなければならないような子どもたちまで、支援をしていただいている、本当に感謝している。一つ目は不登校の話だが、3月2日からコロナのため臨時休校になった。そのまま春休み、延長になり、卒業式は1日だけ登校になり、4月に入って9日の入学式だけ子どもたちは出て来てまた、さらに延長。延長延長が繰り返されて、5月の15日ぐらいから分散登校という形で、クラスの半分だけ登校する、あるいは午前中だけ登校する、午後から登校するという、少ない人数で密をつくらないための登校になった。そんな中、不登校だった子どもが、何人か登校した。休みの間の先生方のアプローチもあったが、よく来たなということで、何で来たんやろうと考えると、まずマスクをする。顔の表情がそんなに目立たない。分散登校なので人数が少ないということ。ありがたい話であった。それは実際子どもたちとの話でも聞いた。しかし、6月から通常の登校になると、ガス欠になってきて、やっぱり来れないという状況もあった。二つ目は、発達の課題というのを感じるが、子どもの特性であったり、発達段階の課題というものが子どもの粗暴な行動等に影響しているのではないかと。保護者の方の育て方が悪いとか、愛情不足だとか、そういう言葉だけで片付けられない何らかの課題があるのではないかと。ニュースで甲賀市で、中学2年生の男子生徒が私服で登校してきて、それを先生に注意され暴力を振るって逮捕された。瞬間湯沸かし器というか、カチッときたらもうそれで切れてしまうのは、何かそういう特性があったのか。そういう子どもたちもいるのではないかと考えている。三つ目は、学校は集団で生活を送るところ。ところが最近個人的な電話がある。子どもが暑い暑い、熱中症になると言って帰ってくる。クーラーは効いているのか、うちの子どもの所にはクーラーが全然当たらない。草津市は（設置から）10年以上経っていて、フル稼働で20℃ぐらいに下げて、換気で窓も開けているので、大変な状況になっている。子どもにミニ扇風機を持たせてよいかとか、自分の子どもだけというような話を聞く。家庭で教室の絵を描いてもらい、どこにクーラーの空調機がついている？教室に1台しかついてないの？風向きは？それでも当たらへんなあ、じゃどうやったらみんなが涼しくなるかな？ということをおも一緒に家庭で指導していただいたら子どもの怒りというのも変わってくるのではないかと。そのようなクレーム、電話がほぼ毎日のようにかかり、届いている状況。最後四つ目は、センターでいろんな活動をされていて、すべてアナログの活動だなと思う。アナログの良さというのは私自身もその中で生きてきたので、よくわかる。これからも対応の中で、例えばオンラインで子どもと自宅にいて支援のいる子どもたちと繋がっていくとか、何かそういう新しい試み、草津らしい少年センター・あすくるの活動に発展していけばまた違った味が出るのかなと。アナログ的な活動は好きなので、重要な体験、土に触れる。そういったものは大事だと思っている。新しい生活様式イコール新しい取組というような、学校の活動もそうだが、毎日試行錯誤している。

【井尻】皆さんの意見や少年センター・あすくるの取組の説明を聞き、なるほどなと思った。

一つ目は本校も障害者雇用を第一に考えていることで、無職少年の対策指導事業の方で、働く意欲が大事になっているとのこと。そのように企業からも聞いているので、同じような視点で取り組んでいけばいいのかなと改めて思った。二つ目は不登校の生徒のこと。本校もたくさんいるが、今は学校に来ることが最大の目的ではないと言われている。できるだけ自分探しというか、自分が何をしたいのか、どういう仕事に就きたいのか、何を一番今やりたいと思っているのかを突き詰めていって、そういうことを足がかりにしながら、もし学校に来られるときがあれば、そういう指導が大切かなということを改めて教えていただいた。生徒指導連協でリーフレットの情報共有をさせていただいている。高校も今は、先ほど坂崎課長からあったように、問題行動が少なくなってきた、目に見えたものがどんどんなくなってきたが、SNSの問題はかなり件数が増えていて、その辺が大きな課題であるなという話をしている。特別支援学校も同じような課題があると思っている。三つ目はパトロールのこと。本校は県内で今年一番生徒数が多い特別支援学校。規模もかなり大きい、できるだけ子どもたちに居心地の良い学校になって欲しいと思っている。心がけている一番大事なことは、挨拶運動と、校内巡視。校門で毎朝子どもたちが来て、本校の子どもの特性で、「おはよう」と言って、「おはよう」と返ってくることはあまりないが、おはようと言いつけることは大事で、接触したら駄目だが、タッチできる子はタッチしたりで、コミュニケーションをとることで、いろんな問題が事前に解決できる部分はあるのかなと思っている。校内巡視も大体1日に2回ぐらい、1回回ると30分位かかるが、回るとそれぞれのクラスのところまで担任がいろいろ話し掛けてくる。気になる子のクラスに行くと、今日は珍しく来ているな、今日はちょっと顔色おかしいなとか。今日はここで先生方とちょっと話ができて、そういうことで、いろんなことが未然に解決できるのではないかなと思う。数値化までは難しいが、未然防止という意味では、パトロールは大事なかなと思う。

【議長】時間も押し迫ってきたので、ちょっと一つ二つ発言をさせていただきたい。コロナの関係で共存していかないとか、生活のスタイルを変えていかないとかいうのは間違いないことだと認識している。終息というが、なかなか完全にゼロにはならない、来年も再来年も一緒に生活していく中にコロナもある。4月からずっと分散登校もしてということであるあの手この手でやっていて、そのうちにGo To キャンペーン、Go To トラベルの関係で東京はもう解除されてイベントの人数制限も規制緩和されて緩んできたらまたどうなるのか。町内会長をしているが、夏休みのラジオ体操も止める、中学校の通学路をいつも2学期が始まる前に掃除するが、それも止めるという。自治連の会長もしているが、止めるのはかまわないが、草は待ったなしで伸びてくる。8月22日に刈って、子どもたちが「明るくなった」とすごく喜んでくれた。声掛けして来られる人だけでいい。結果的には今のところ、その日以降何もなかった。感染するもさせるも、自己管理だから、それを意識し合って高め、常に意識しながら、今この雰囲気では何をすべきかを考えた方がいいのではないかな。湯浅委員がパトロールのことで発言されたが、9月20日から改めてパトロールを実施する。いろんな団体合わせて7つのコースに分けて、時間帯毎にこの時間帯でこういうことをしたいと言って、そこそこの人が持ち寄って

きた。それで1回確かめてみよう。完璧なものはない。知らない人でも割り当てがあってパトロールに参加して、何を得ることができたのか、何を感じ取ることができたのか。そのようなことも大事という意識も持ってほしい。みんなが意識し合っているおかげで、こんなことしたらあかんやないかの「あ」の一部ができたという期待を込めたパトロールだったらいいのではないか。保護司の立場で、先ほどビデオをみた時に働く意欲があること、挨拶ができること、話が聞けること、無断で休まないことを、対象者と接触してその体験をずっとしてきた。もう一つ必要なことは、何もこっちが上から目線で言って説得してうなずかせても、「そやけどもな」というその子の言うことも聞いてあげないとだめで、本人の意向を尊重した上で、上手く聞いてあげてガス抜きもしてあげ、こちら側でそこまで言うんだったらこうしようかという形になるというよりどこを探ってあげないとあかんのかと思う。来年の5月にキラリエ草津で家庭菜園のようなものを予定されているが、今より狭くなるとのこと。立命館大学の食育学部が守山かどこかで、休耕田がたくさんあるとのこと。場所は幾つでもあると思う。施設の近くでないとだめというより、出掛けて行ったらいい。僕がこれを植えたから、こんなもんができたという達成感の方を体で受けとめさせる方がもっと大事だと思う。自治連合会の会議に14学区代表で行って、困っていてどこかないか、いくらでもあると言ってくれると思う。子どもたちの中で学校に行けないが、せめてここへ来てという部分では、広い目線で見守るという形があればと思ったのでぜひ検討していただければと思う。今日ずっと聞かしていただいた中でいろいろとセンターに吸収していただけたところもあればと思う。山下さんから意見を願います。

【山下】ハローワーク草津に登録されている10代が39人位、あすくるの方でも相談に来られている。センターと担当者と相談し進めていただいている。

【議長】就労体験協力企業が41社ということ、保護司会とは協力雇用主会と阿吽の呼吸で仕事をしている。拡充して相互に協力体制を築いていければと思った。以上で、協議案件の意見交換等これですべて終わらせていただきます。ありがとうございました。

【事務局】終わりにあたり、副委員長から願います。

【高野】三つほどにまとめました。一つ目が人とのコミュニケーション。繋がりという面で大事だと思いました。二つ目は、しんどい時に話を聞いてくださる人、その人の大切さを感じました。三つ目は、居心地のいい居場所、それが家庭であったり、学校であったり、あすくるであるのかなど。居心地の良さ。今後とも、青少年の健全育成、非行防止のため、それぞれの団体機関の役割をしっかりと全うして、担っていきたいなと改めて感じました。

【事務局】これで第1回運営委員会を終わります。